

技術協力活動と研修活動の連携（新シリーズ）

第1回：はじめに

「人づくり・人材育成」という意味で、各種研修事業は様々な技術協力分野において益々その重要性を増している。途上国で実施されている農業分野の実証調査や技術協力プロジェクトにおいても、研修普及分野がその重要な構成要素となる場合が多くなってきている。例えば、我々が現在シリアアラブ共和国で実施している節水灌漑農業普及計画においても、節水灌漑技術に関する研修普及業務が活動の中心となっている。このような海外における研修普及活動に、これまで国内の研修業務で蓄積されてきた経験やノウハウを、より有効に生かすことが重要であると考えている。そこで、これまでどちらかという別々に実施されてきた海外での技術協力活動と国内での研修活動を、今後うまく連携させていくといった考え方が必要になると思われる。

過去のAAI ニュースでは、これまで途上国で実施されてきた専門家派遣や開発調査といった様々なスキームでの技術協力活動を紹介してきた。以前はJICAでは派遣事業部や研修事業部といったように事業部の違いがスキームの違いに反映されており、プロ技以外では異なったスキーム間での連携が極めて困難な構造になっていた。その後、組織構造にも改善が加えられると同時にプログラム方式も取り入れられて、スキーム間の連携が見直されてきた。さらに、昨今の技プロにおいてはスキーム間の連携を積極的に進めようとしており、海外での技術協力活動と国内での研修活動の連携を推進できる条件が整いつつあると考えられる。

最近のAAI ニュース43号から48号のシリーズでは、研修事業に対する我々の取り組みを紹介してきた。ここでは、JICA 筑波における国内での農業研修業務の現状を紹介すると同時に、研修終了後のフォローアップ活動の重要性を強調した。また、開発調査や専門家派遣事業におけるカウンターパート研修の波及効果についても言及した。さらに、第三国研修や技術交換事業のあり方の一つとして、途上国の多くで日本政府の協力により設立・運営されている施設のより多方面にわたる活用を提案した。最後にシリーズのまとめとして、研修の有機的活用ということをより積極的に考えて実行に移していくべきであることを強調した。

こうした様々な活動を通して得られた経験を基に、今後の技術協力活動と研修活動の連携について考えてみると、現時点で以下に示すような連携タイプに分けることが出来るのではないかと考えている。それぞれの連携タイプについて具体的な例を挙げながら、将来的なプロジェクト実施に結び付くような提案を試みることを本シリーズのねらいとしたい。

連携タイプ	内容
フォローアップ型	タジキスタン野菜栽培コースや南部アフリカ野菜・畑作技術コースでの経験を基に、帰国研修員に対するフォローアップを通じた草の根技術協力活動の育成等に関する可能性を探りたい。
技プロとの連携型	例えばアフガニスタンの農業試験場再建計画の場合、再建される試験場の将来のスタッフに対して必要な研修を日本国内において事前に実施することは、極めて効率的なプロジェクト運営につながる。
第三国研修重視型	特に乾燥・半乾燥地域といった日本とは大きく環境の異なる地域における活動においては、我が国の協力によって既に設立・運営されている施設の利活用や第三国研修をうまく取り入れたプログラムを検討する。
複合プログラム型	これまでのように活動をスキーム別を実施するのではなく、プロジェクト形成の段階から技術協力活動と研修活動を含む様々なスキームを効率的かつ包括的に推進するようなプログラムを検討する。